

開校当時の隠岐養護学校 児童生徒の状況

1 隠岐養護学校開校時の児童生徒

昭和 54 年 4 月 1 日 小学部 9 名、中学部 6 名の入学生を迎えました。

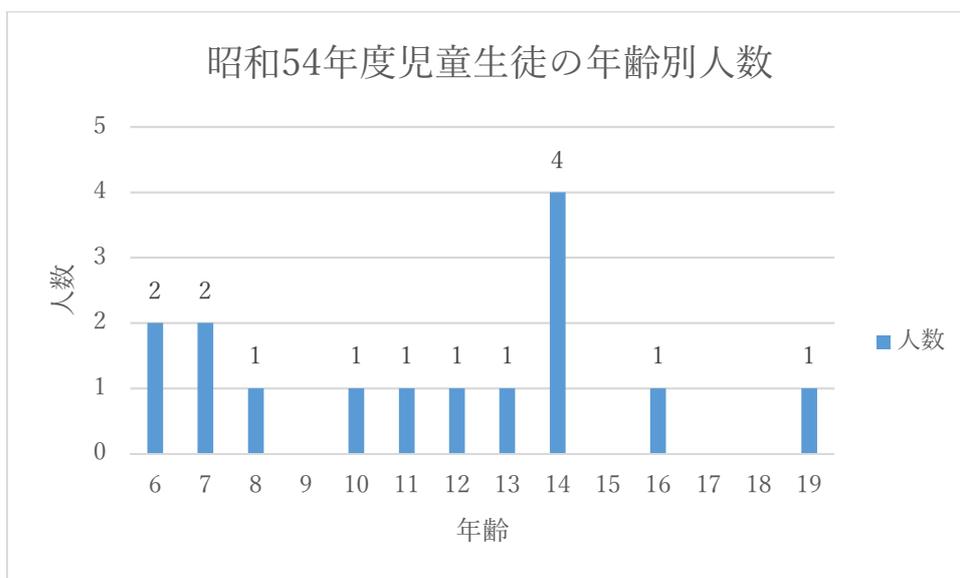
下記のグラフは小中学部の入学生の年齢を示したものです。

入学前の学びの場は大まかにいうと

- (1) 西郷小中学校の特別支援学級
- (2) 杉の子学園内に設置された西郷小中学校の「ひまわり教室」
- (3) 在宅

初年度 小学部 1 年生に該当には 4 名在籍していましたが、6 才の児童は 2 名でした。保護者などとの協議により、入学する学年の決定がなされた結果と推測されます。同様の年齢と学年との差は、各学年でも確認されます。

19 才で本校中学部 3 年として学習を開始した生徒は、本校に 4 年在籍し 22 才で中学部を卒業しています。中学部に 4 年在籍した生徒は他に 3 名。就学義務以前の学習期間を子どもの状況に応じて埋めていく取組であったと考えられます。



2 訪問教育

本校に通学することができない児童生徒に対して訪問教育が実施されました。本校の訪問教育で学んだ児童・生徒は、平成 4 年度までに 3 名。内 1 名は中学部 3 年時に杉の子学園に入所し、高等部を卒業しています。通学に至らなかった理由が障がいの程度だけではない事情が推測されます。

3 杉の子学園からの通学生

昭和 54 年度入学生の内、自宅からの通学生は小学部 1 年生の 2 名のみで、11 名は杉の子学園から、2 名は在宅で訪問教育を受けてきました。多くの子どもたちが親元を離れて本校で学んでいました。

自宅通学生数が学園からの通学生数を上回ったのは、平成 6 年度。自宅通学生 6 名、学園からの通学生 4 名でした。

平成 8 年度高等部開設以後、中学校からの進学者が増加し、そのほとんどが自宅通学生であったことで自宅通学者の割合は年々増加しました。中学部の入学生も平成 10 年度以降、小学校から入学する生徒が続くようになり、自宅通学生の数は増えていきました。